

# さわやかさん

森田由香子さん・同調師



現在、食生活改善推進協議会会長を務める森田さん。  
「ヨロから」健康問題「について真剣に取り組んでいます。」

細川久雄さん・上野田



交通安全協会の一員として、交通安全週間はもちろん、それ以外のときでも街頭に立って、安全を呼びかけている細川さんです。

十年ほど前に、近所の人に誘われたのが交通安全の取り組みをはじめたきっかけ。  
立派な先輩がたくさんいるので、その人たちが手本にしながら、自分も交通安全を訴えています。  
街頭に立って覚悟があるので

すが、若い人にシートベルトをしていない人が多いように思います。ぜひつけるようにしてほしいですね。  
健康にもいいし、また、少しでも交通安全のため役に立てればいいので、できる限り活動を続けたいと思います。

調理師の仕事を退職した昭和五十九年、広報で「病人食」の記事を読み、勉強してみたいと思ったのがきっかけ。以来、寝るとき以外はいつも「どうすればより健康的でおいしい料理ができるか」考えるようになりました。  
去年は市の依頼を受け、県や中央保健所の方、食改のメンバーで「貫之御膳」を考案。その土地土地でとれるものを材料に、平安時代の料理を再現してみました。今後、この「貫之御膳」が南国市の顔になっていったらうれしいですね。

## 戦後の解放運動・教育・行政が どのように行われたか ②

### 同和对策審議会答申②

同対審答申の第一部に「同和問題の認識」について記述され、同和問題の本質が次のように明記されています。

「いわゆる同和問題とは、日本社会の歴史的發展の過程において形成された身分階層構造に基づく差別により、日本国民の一部の集団が経済的・社会的・文化的に低位の状態におかれ、現代社会においてもなおいちじるしく基本的人権を侵害され、とくに、近代社会の原理として何人にも保障されている市民的権利と自由を完全に保障されていないという、最も深刻にして重大な社会問題である」

大変むずかしい用語で書かれていますので、わかりにくいですが、同和問題は、かつての日本の歴史（徳川時代につくられた身分制度）の過程でつくられた差別が原因とな

って、今日でも日本国民の一部の人びと（同和地区住民）が、経済的にもきわめて貧しい生活に追いこまれており、社会的にも文化的にも低位におかれ、日本国民としての市民的な権利さえ保障されていない、重大な社会問題であると書かれています。

これは、それまで日本の行政があいまいにしてきたいた部落差別が、現実の日本社会に存在していることを公的に認められた点に、大きな意義があります。次に、同和地区の人たちは、多くの日本国民とは違った人種であるとか、昔、いやしい仕事をさせられていた人びとの子孫だとかいった俗説・偏見を打ちくたせ、日本民族、日本国民のなかの少数集団の問題であることを明らかにした点であります。

### 同和教育シリーズ

答申では、差別を「心理的差別」と「実態的差別」にわ

けて分析しています。心理的差別とは、人びとの心の中に潜在する差別で、これが言葉や文字として同和地区の人びとを侮辱する行為（例えば、差別発言や落書き等）になったり、誤った偏見によって同和地区の人を嫌い、交際を断ったり、婚約を破棄するといった行動にあらわれるのです。

実態的差別は、同和地区の人びとの生活に具体的にあらわれている差別です。例えば、正常な就職ができないため、平均の数倍の高率での生活保護家庭を生むなど、経済的にきわめて貧しい状態に追いこまれ、義務教育さえ十分に受けられず、劣悪な部落産業に就労することを余儀なくされた実態をいいます。

そして、心理的差別が実態的差別を生み、実態的差別が人びとの心に、同和地区を嫌悪する心理的差別を生みだす結果を招き、これを切り離して考えられないことを強調しています。